

■荒木又右衛門 剣客。仇討ちを助太刀し、一躍英雄になった直後に急死、講談や時代小説、時代劇映画などに。

あらきまたえもん

前田利家没・1599＝

伊賀国服部郷荒木村で、藤堂高虎に仕えていたが、淡路で浪人した後、備前岡山藩の池田忠雄に召し抱えられた服部平左衛門の次男に生まれる。名は保知。

関ヶ原の戦い・1600＝1歳：

父からは中条流、叔父の山田幸兵衛から神道流を学んだようで、

家康駿府退隠1607＝8歳：

・・・・・・1608＝9歳：

山田長政渡航1611＝12歳：本多政朝の家臣服部平兵衛の養子となる。

支倉常長渡欧1613＝14歳：この頃、柳生宗矩や柳生三厳の門人となり柳生新陰流を学んだとする説があるが、矛盾する面も多い。

徳川家康没・1616＝17歳：

吉原遊郭始・1617＝18歳：

元和大殉教・1622＝23歳：この年、本多家が姫路城主となると、

徳川家光将軍1623＝24歳：

人身売買禁止1626＝27歳：

紫衣勅許無効1627＝28歳：

・・・・・・1628＝29歳：

養家を離れ、浪人して、帰郷後、はじめ菊山姓を名乗り、のちに荒木姓を名乗る。

*大和郡山松平忠明に召し抱えられ、剣術師範となる。

父の同僚だった渡辺数馬(内蔵助)の娘みよと結婚、二代目数馬(源太夫)とは義兄弟の縁となる。源太夫は、岡山藩で美男子として知られ、藩主池田忠雄の寵童であったといい、剣術師範の上席河合甚左衛門の甥河合又五郎から懸想されてこれを拒んだために殺される。又五郎は江戸に逃げて旗本安藤家にかくまわれ、藩主池田忠雄は又五郎の身柄引き渡しを求めたが、拒まれ、

徳川秀忠没・1632＝33歳：

この頃、*義弟渡辺数馬の依頼で仇討ちの助太刀をすることになり、郡山藩を退身。この間、藩主池田忠雄が死去し、跡を継いだ光仲は鳥取へ移封される一方、又五郎は江戸払いに処され、

鎖国令Ⅱ・・・・1634＝35歳：

伊賀上野鍵屋の辻で河合又五郎を討ち、本懐を遂げた。数馬側は4人のうち1人死亡、3人負傷、又五郎側は11人のうち4人死亡、2人負傷、5人逃亡。この“伊賀越の敵討ち”で一躍英雄となるが、斬り合いの急場に新刀を用いたことを藤堂家の家臣で戸波流を興した戸波又兵衛に批判されると、自らの不覚を悟り、

参勤交代始・1635＝36歳：

*数馬を伴って戸波に入門。ともに、藤堂家に客分として保護されたが、鳥取藩池田光仲の請いにより、

島原の乱終・1638＝39歳：

*鳥取に移り、二人はそれぞれ妻子を呼び寄せたが、待つことなくわずか17日目に急死したという。毒殺説の一方、鳥取城内にかくまわれ、実際に死んだのは5年後という説もある。